



子どもが主体で企画運営する

子ども食堂「ききょう」

「ききょう」と命名。桔梗の花言葉に「友の帰りを待つ」の意味があることと、故郷に帰る「帰郷」の意味を掛け合わせたとのこと。



第1回目：平成30年6月20日(水)17:00～18:00

特定非営利活動法人しいのみ あったかふれあいセンターにしきの広場

企画の目的

- 子どもたちが大人になったとき、何か少しでもお料理の作り方を学んでおくことで体に良い食生活が送られるように。
- 地域の中で、子どもと子ども、大人と子ども、高齢者と子どもが関わり合うことで支え合いの意識が生まれる。地域の中で育ったという地域愛を育む。
- 企画、運営を任せることで、リーダー育成や次世代育成につなげる。
- 孤食になりがちな家庭への支援



子ども食堂「ききょう」開催に向けてのステップ

ステップ 1
協働者募集
(大方高校2年生)

ステップ 2
第1回
企画会議
(説明、共有)

ステップ 3
第2回
企画会議
(具体的起案)

ステップ 4
第3回
当日運営

ステップ 5
第4回
振り返り
(7月4日予定)

調理、参加者との関わり、アンケート実施

メニューを決める、集合時間、
広報の仕方、チラシ作り、高校
生の学校行事に合わせて細かく
設定



第1回目打ち合わせ (顔合わせ、企画の説明など)



☆調理指導してくれるボランティアさんも、高校生の話をしっかりと聴いてくれ、メニューを決める。

☆名前も決めてくれる、エプロンも手作りしてくれる、手作りにこだわる高校生の姿勢から職員もたくさんの刺激をもたった。

第1回目の様子

- 小学生は、ご飯ができるまでに、宿題を済ませた
- テレビを消して、会話を楽しみながら食べた
- 子どもと保護者が混ざり、楽しく食事ができた
- 苦手な野菜にもチャレンジできた
- 食べた後は、「ごちそうさまでした」と、下膳できた
- ご飯の後は、保護者のかかわりの下、輪投げなどで遊べた
- 高校生が準備したアンケートもきちんと記入できた



<参加者分類>

| 参加者 | 人数 | 役割 |
|----------|----|---------------|
| 子ども(保育園) | 5 | 食事 |
| 子ども(小学生) | 14 | 食事 |
| 大人 | 9 | 食事 |
| 高齢者 | 3 | 食事 |
| 高校生 | 3 | 調理、運営 |
| ボランティア | 2 | 調理 |
| 職員 | 5 | 安全管理 調理、送迎 |



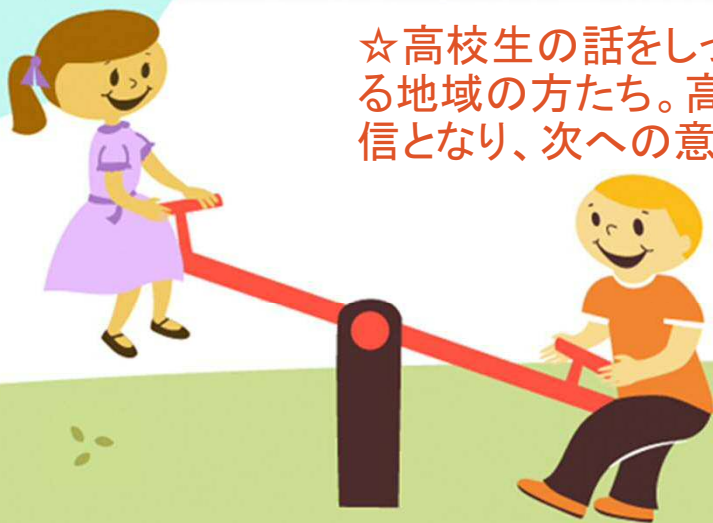


☆自分の子どもも、よその子も同じ
テーブルを囲んで楽しい会話の中、
完食できました。



☆高校生の話をしっかりと聴いてくれる地域の方たち。高校生にとっても自信となり、次への意欲につながった。

☆ダンススクールが終わった子ども、この後、レッスンがある子ども。保護者の連携で利用ができた。小食の子どもも、皆で食事をすることで完食。昨日も、宿泊研修でカレーライスだったとか。次回の希望のメニューも積極的に提案してくれた。





☆苦手な野菜も、
高校生のお姉さんに
やさしく声を掛けて
もらって、頑張って
食べたところ。拍手を
してほめてくれたね。

☆作り手と、食べ手の
コミュニケーションも
大切。





《本日のメニュー》

☆夏野菜のせかレー

☆野菜サラダ

☆手作りプリン

(玉ねぎ、ジャガイモ、
キュウリ、オクラは地域
からのいただきものでした)

☆頑張った後には賄い飯？今日の反省を
しながら美味しくいただきました。
☆意識を高めるために、お揃いのTシャツ
を作りました。



次回に向けて・・・

- * 地域に情報発信し、より多くの方に来ていただき、交流を深める(課題発見の機会を作る)
- * 継続することにより、子どもの様子に変化があれば気づくことができ、孤食になりがちな家庭の子どもについては保護者間で共有しながら利用につなげる(互いに見守る意識づくり)
- * チラシ作りは、今回同様、小学生にも協力してもらおう(縦のつながりづくり)

